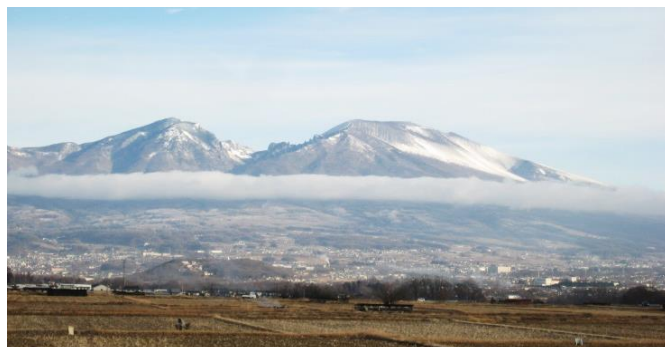


令和6年度 12月の補導活動

佐久市少年センター

1 街頭補導実施回数	15回
2 延べ従事補導委員数	64人
3 相談件数	0件
4 補導した少年数	0人
5 声かけ人数	254人



12月の活動日誌から

12月2日（月）

3・4班（K・M） 記

巡回経路 砂田公園 → 近津南公園 → ねむのき公園 → 市民交流ひろば
→ 大型スーパー（ゲームコーナー、フードコート）

活動の様子

師走に入り、寒さもひとしおである。それでも本日は、柔らかな陽ざしの穏やかな日和となった。近津南公園、ねむのき公園では、数名の小学生を見かけたが、外で遊ぶ子どもはとても少ない。市民交流ひろばでは、数組の親子連れが、日の当たる場所を選んでのんびり過ごしていた。市民交流ひろばの西側駐車場に駐車していたパトロールカーが目に入った。なんの事件かといふかったが、パトロールカーに興味を示して駆け寄った親子に警察官が、パトロールカーの説明をされていた。微笑ましい光景に心も温かくなった。

12月3日（火）

11班（K・I） 記

巡回経路 生涯学習センター → 取出町諏訪神社 → 東田公園 → 鍛冶屋公園
→ 高柳公園 → 野沢児童館 → 原公園 → 城山公園

活動の様子

生涯学習センターでは、1階のつどいの広場に5名ほどの小学生が遊んでおり、2階の学習室には2名が学習しているだけで、利用者は大変少ない状況でした。学習室は普段20名ほどが利用しているようで「今日のように少ないのは珍しい」とのことでした。東田公園では、小6の女の子が2名いました。「中学生になったら、部活が楽しみ」と話してくれました。野沢児童館は、館庭・館内とも多くの小学生がおり、賑やかでした。「70人くらいの小学生が来ている」とのことでした。城山公園では、10名ほどの小学生がおり、四阿（あずまや）で対戦ゲームをやっていました。



12月4日(水)

15班(K・Y) 記

巡回経路 中込駅 → 城山公園 → 野沢商店街 → 生涯学習センター

活動の様子

師走に入り、八ヶ岳・浅間山にも雪が降り、とても寒い日でした。城山公園は、大きめの広場や四阿(あずまや)等があり、宿題をしたり、ゲームをしたり、元気に遊ぶ児童が10人ほどおり、あいさつを返してくれました。新築から間もない生涯学習センター・広域連合ビルには、様々な公共機関があり、生涯学習センターの『つどいの広場』では、高校生・中学生10人ほどが静かに学習していました。施設内は、暖かく毎日だれでも利用できるのも、ありがたい施設だと思いました。

12月5日(木)

学校訪問(臼田中学校)

16班(I・K) 記

概要

臼田中学校を訪問し、教頭先生・生徒指導の先生から学校の概要や生徒の様子などについてお話を伺いました。生徒数は271名。学校目標の「信頼される人になる」を具現するため、3つの柱(重点)①「授業の充実」、②「きめ細やかな生徒指導の充実」、③「生徒会・部活動・行事等の体験を通じた関わり」を基に探究的な学びに挑戦する生徒の育成、教師の指導観の確立、友達・家族・地域・関係する方々への感謝の気持ち、心の豊かさ、命の尊さを大切にして実践できる生徒の育成に取り組んでおられるとのことでした。ただ、どこの学校でも不登校やメディアによる問題については、現在の課題として日々取り組んでいる様子を伺うことができました。現在大きな問題に発展している案件はないとのことでした。発生した問題については、各関係機関とタイアップして対応しているようでした。今後も継続した活動をお願いします。お忙しい中対応していただき、ありがとうございました。とても有意義な活動となりました。

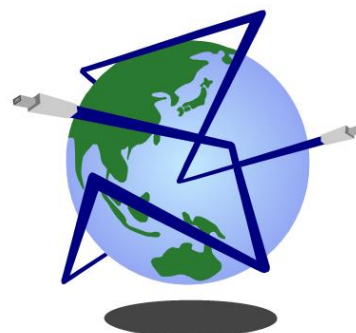
12月6日(金)

2班(I・K) 記

巡回経路 大型ゲームセンター → ネットカフェ → ゲームセンター
→ パチンコ店 → 曽根公園 → 仙緑湖公園 → 久保田公園
→ 枇杷坂公園

活動の様子

師走とはいえ、それほど寒さは感じない。佐久インター付近のゲームセンターを中心に、巡回活動を行った。中学校は、保護者懇談会期間中とのことで、学校が早く終わり、スーパーで買い物をする子を見かけた。ゲームセンターや公園に子どもの姿はなかった。ネットカフェやパチンコ店では、身分証明が必須で、不審な点があれば、学校に連絡してくれるとのことだった。未成年への対応は徹底していると感じた。未成年はお酒もたばこも購入できない。また、昔のように、公園でたばこを吸う未成年も見かけない。その一方、大人の目の届かないところ、ネット世界の中の方が、子どもたちにとっては危険なことが多いのではないだろうか。



12月9日(月)

10班(M・E) 記

巡回経路 生涯学習センター → 原公園 → 城山公園 → 岸野児童館
→ 泉団地公園

活動の様子

気温が下がり、寒い日の活動でした。生涯学習センターでは、小、中学生を多く見かけました。宿題をしたり、ゲームをしたりしながら、楽しそうに過ごしていました。原公園に子どもの姿はありませんでした。城山公園では、小学3年生の児童5名が、カードゲームを楽しんでいました。男の子の中に、女の子が一人交っていましたが、仲良く遊んでいました。4時半までには帰宅するように、学校から指導されているそうです。岸野児童館では、館長さんに面会し、お話をうかがいました。当日の利用者は、1年生、2年生合わせて19名とのことです。学習や工作などをしながら、保護者の迎えを待っていました。泉団地公園では、時間が遅かったため、子どもたちは家路につくところでした。



12月10日(火)

6班(K・M) 記

巡回経路 浅間会館 → 学童保育 → 岩村田児童館 → 若宮公園
→ 枇杷坂公園 → 浅間会館

活動の様子

児童が放課後、帰宅前に待機している場所を中心に訪問しました。浅間会館の学習室では、一人の女子生徒が静かに勉強していました。学童保育には、とても家庭的な環境の中で、20人ほどの児童が楽しそうに過ごしていました。岩村田児童館は、85人ほどの大所帯でしたが、インフルエンザの流行のため、今日の利用者は少なめとのことです。若宮公園は、さすがに寒いせいもあるのか、人影はありませんでした。最後に訪問した枇杷坂公園では、放課後等デイサービスの職員指導の下、5、6人の児童が元気にサッカーをしている様子がうかがえました。

12月11日(水)

7班(I・H) 記

巡回経路 砂田公園 → 近津南公園 → ねむのき公園 → 市民交流ひろば
→ ミレニアムパーク → 大型スーパー内ゲームコーナー

活動の様子

師走の街も繁忙期となりましたが、外気温3℃の中、街頭補導活動を行いました。寒い中、公園でサッカーや野球を楽しんでいる児童がおり、声をかけました。大きな声で「こんにちは」と返してくれて、とてもさわやかな気持ちになりました。「かぜをひかないように」と声をかけて、その場を後にしました。なお、近津南公園には時計がなく、子どもたちの帰宅時間が分からないと心配しましたが、小学校のチャイムが聞こえるとのことで安心しました。ミレニアムパークでは、高校生たちがバスケットボールに興じていました。こちらでも大きな声で「こんにちは」と気持ちの良いあいさつに感謝です。大型スーパー内ゲームコーナーは、いつものように若者、家族連れでにぎわっていました。

12月12日（木）学校訪問（佐久平総合技術高等学校浅間キャンパス） 1班（M・T） 記

概要

師走の忙しい時節の中、今回は、佐久平総合技術高等学校浅間キャンパスを訪問し、校長先生、教頭先生、生徒指導係の先生方にご参加いただき、生徒の学校生活のようすや生徒指導について、意見交換を行いました。その中で特に話題になったのは、スマートフォンやインターネット、SNSに関してでした。SNSは、気軽に不特定多数の人たちと簡単につながりを持ててしまうことで、親や先生も知らないところで好ましくないコミュニティーが生まれ、犯罪や非行に走るきっかけともなってしまうかもしれません。学校でもこうした現状をよく理解し、問題の未然防止に努めていただいておりますが、私たちおとなも、子どもとの関りをしっかり持ち、SNSの特性や危険性を十分認識して対処できるようにしていく必要があると感じました。



12月13日（金） 13班（専門補導員） 記

巡回経路 中込駅 → 横町公園 → 平賀新町公園 → 水上公園
→ 橋場公園 → 成田公園 → 成知公園 → 学童保育

活動の様子

朝から曇り空の寒い午後であった。中込駅の待合室の暖房がありがたく感じた。平賀新町公園は、落ち葉がきれいに片付けられていたが、人の姿はない。水上公園では、寒さに震えながら、一組の親子がキャッチボールをしていた。成知公園もひっそりとしていたが、公園の隅に目をやると、2名の小学生が自転車で築山を上り下りして遊んでいた。学童保育からは元気のよい子どもたちの声が聞こえてきた。10名ほどの子どもが、庭でボール遊びをしていたが、おやつの時間の呼びかけに、室内に移動していった。26名の児童が、自席に着くと、あいさつをして、用意されたおやつをおいしそうに食べ始めた。この学童保育では、午後4時におやつを提供しているという。「午後7時までに保護者が迎えに来られない児童にも対応している」とうかがったが、公の補助があるとはいえ、施設長さんはじめスタッフの方々のご尽力に頭が下がる思いであった。

12月16日（月） 5班（I・A） 記

巡回経路 大型ゲームセンター → 久保田公園 → 中央公園 → 若宮公園
→ 一本柳公園 → 大型ディスカウントストア → 大型ゲームセンター

活動の様子

今年も残すところ、半月あまり、寒さも日々身にしみる今日この頃、大型ゲームセンターから久保田公園など、いくつかの公園を巡回したが、人影はなかった。一本柳公園に行くと、男子児童が野球のグローブを横に置き、ゲーム機で遊んでいた。話を聞くと、小学校3年生の友だちと待ち合わせとのこと。その後、今夏、佐久平に出店された大型ディスカウントストアへと出向いた。所せましと並べられた商品の中、店員に話を伺うと、大きなトラブルはないが稀に商品の中身だけを持ち去る万引きが数件あったとのこと。それも高齢者に

多いという。深夜2時まで営業しているとのことだが、夜中にお客さんがくるのかなと思いながら店を後にした。

12月18日(水)

9班(U・T) 記

巡回経路 生涯学習センター → 東田公園 → 鍛冶屋公園 → 野沢児童館
→ 原公園 → 城山公園 → レンタルビデオ店 → 生涯学習センター

活動の様子

生涯学習センター2階の学習室では、10人ほどが勉強中でした。いつも思うのですが、机に向かっている皆さんの背後からは真剣さが伝わってきます。1階の「つどいの広場」も児童・生徒たちが利用していましたが、館内は暖かいので集まってくるのだらうと思いました。野沢児童館の本日の利用は70名とのことでした。寒い中20人ほどが元気に外遊びをしていました。外遊びするのは低学年の児童が多いとのことでした。なお、当児童館は、来年10月で閉館となり、11月より野沢小学校に隣接した新しい児童館に移ることです。レンタルビデオ店では、16日に千曲市の系列店舗で強盗事件が発生しており、従業員の皆さんに、注意してくださいとお願いしました(後日、犯人は逮捕されました)。城山公園では、数人の子どもたちの姿が見られましたが、他の公園には人影はありませんでした。

12月19日(木) 学校訪問(佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス) 17班(専門補導員) 記

概要

寒さに身を縮めて事務室に向かう階段を上ると、暖かな校長室に案内された。副校長、生徒指導係の二名の先生が丁重に迎えてくれた。資料に沿って、学校や生徒のようすについて説明を受けた後、質疑応答の形で会議は進行した。生徒数180名ほどの当校は、佐久、小諸市内はもとより、広く上田市、東御市からの生徒も在籍しているとうかがった。生徒指導上の問題も散見されるが、件数は比較的少ない状況で、頭髮・服装指導、あいさつ運動などの風紀指導に力点を置いているとお話しいただいた。スマートフォン所持やSNSに関わる懸念は、どの学校にも共通する問題だと感じた。また、長距離通学の生徒も少なくないことから、教習所と連携した原付バイク通学生の指導、服装規定を自由化したことによる服装指導など、独自の学校の課題にも適切に対応していただいていると感じた。

12月20日(金)

8班(I・K) 記

巡回経路 大型スーパー → 大型スーパー内フードコート・ゲームコーナー2カ所
→ 市民交流ひろば → ミレニアムパーク → ねむのき公園 → 大型スーパー

活動の様子

大型スーパーのフードコート内には、親子連れや勉強中の高校生がいました。ゲームコーナー2カ所を巡回しましたが、母親が買い物中で、子どもだけで遊んでいる小学生に気をつけるように声かけを行いました。ミレニアムパークでは寒空の下、元気にバスケットボールをする高校生、中学生がいました。中学校では、今週は「三者面談期



間中」で帰りが早いようでした。ねむのき公園では、サッカーボールで遊ぶ小学生が多数おり、2人の母親がそのようすを見守っていました。四阿(あずまや)の屋根に登ってしまう子も以前いたそうですが、専門補導委員の方が注意を呼びかけていました。

12月23日(月)

19班(H・T) 記

巡回経路 大伴神社 → 若駒児童公園 → 望月児童館 → 望月総合体育館
→ 望月総合グラウンド

活動の様子



天気は良好でしたが、寒い日であったためか、巡回各所に子どもたちの姿は見られませんでした。ただ、望月児童館を訪問すると、小学校が下校時間で、多くの児童が徒歩、スクールバス、保護者の迎えなど、それぞれの方面に帰宅するところでした。横断歩道を渡ってすぐのところにある児童館へも、多くの子どもたちが入って行きました。児童館の利用者名簿を見ると、50数人の名前があり、館内で過ごす子どもたちの表情は明るく楽しそうでした。望月小学校の規模を考えると、児童館の利用率は高く、児童館の安全・安心の役割を強く感じました。また、児童の下校時に、街頭に立って交通安全にあたる先生方の配慮をありがたく思いました。

12月24日(火)

14班(専門補導委員) 記

巡回経路 中込 → 横町公園 → 中込中学校通学路 → 枇杷坂公園 → 近津南公園
→ ねむのき公園 → 大型スーパー → 中込駅

活動の様子

通常、中込地区内で活動しているが、他地区の様子を確認してみたいということで、浅間地区内の街頭補導活動を行った。数か所の公園を訪問したが、いずれの公園も寒気のせいか、人影はまったくなく、園内の木立も寂しそうに感じた。大型スーパーは、公園とは裏腹に駐車場はほぼ満車状態で、店内は大勢の買い物客でごった返していた。フードコートのテーブルでは、何組かが憩いのひと時を過ごしていた。その中に、サンタクロースの格好をした2名の女子高校生が、スマホで自分たちの姿を動画撮影していた。話を聞くと思い出作りをしているとのこと。動画配信はしないと言っており、一安心した。他のテーブルでは、5、6人の女性が何かを作っていた。声をかけると、19歳、20歳の大学生で「点字の楽譜を作っています。目の不自由な方に渡そうと思っています」とのことだった。心温まる話を聞くことができ、自分の心も温かくなったような気がした。



12月25日(水)

12班(K・S) 記

巡回経路 生涯学習センター → 東田公園 → 原公園 → 城山公園
→ 書店(2店舗) → 生涯学習センター

活動の様子

東田公園では、子どもの姿はなく、原公園では、10数人の子どもがいて、けがのないよう、また、時間には帰宅するよう声かけをした。城山公園では、4、5人の子どもたちがゲームやサッカーを楽しんでいた。みんな良い子どもたちで、これから良い青年になってほしいと思った。訪問した二つの書店では、数人の子どもたちと会い、あいさつを交わした。生涯学習センターでは、多くの子どもたちが学習していた。

12月26日(木)

18班(Y・K) 記

巡回経路 浅科支所 → 八幡神社公園 → 交流文化館浅科 → 浅科図書館 → 上原公園
→ 道の駅 → こまよせ児童公園 → 十二川原公園 → 浅科支所

活動の様子

師走も押し迫り、寒気が一休みした比較的暖かな陽気の中で巡回をしました。今日は、浅科地区内の小・中学校で二学期の終業式が行われたようです。交流文化館浅科では、敷地内の『日時計』をテーブル代わりにして3人の女子中学生が読書やノートにメモを取っていました。暖かな日とはいえ、師走の夕方であり、寒くないかと心配になり「図書館に行つては」と声かけしました。すると、学校の決まりがあるのでしょいか「下校途中には、寄つてはいけないことになっている」と答えてくれました。また、その近くに下校途中の男子中学生が数人おり、声かけをしました。とてもさわやかな対応で、すがすがしい気持ちにしてもらいました。上原公園では、親子と思われる方がシーソーで楽しそうに遊んでいました。十二川原公園では、女子児童2人が仲よく遊んでいました。二人は、仲の良い同級生で、一人は公園近くに住んでいるとのことでした。もう一人の児童の祖父が車で迎えに来ると、その子は私たちに「よいお年を」とあいさつをした後、車に乗り、帰って行きました。小学生から「よいお年を」のあいさつをされ、びっくりするとともに、しっかりした子だなと思い、このまま、すくすくと成長して欲しいと願いながら、遠ざかる車を見えなくなるまで見送りました。

12月の活動を終えて 専門補導委員(S・H記)

令和7年が明けた。昨年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登地方を震源とする大きな地震が発生した。最大震度は7を観測し、佐久市でも大きな揺れに、新年早々多くの方々が恐怖を感じたに違いない。

13年前、2012年3月29日、私は以前から計画していた東北への旅を決行した。決行というと少々大げさに聞こえるかもしれないが、2011年東日本大震災から1年が経過したその年であった。

14年近くも前の、あの日の出来事を、今でも鮮明に思い出することができる。今まで体験したことのない大きな揺れ。映像に映し出される巨大な津波。波に飲み込まれる家々。黒く巨大な大蛇のように大地を這う黒い波。現実とは思えない映像に唖然とした。だが、これはCG映像ではない。

その日から、この未曾有の大災害の実像をこの目で見届けなければならぬと思い続けてきた。3月も下旬ともなれば、北国といえども春はやってくる。高速道路を使って盛岡まで北上し、太平洋側の海岸に沿って仙台まで下ることにした。当時東北地方の高速道路は、無料開放対象になる区間がかなりあった

が、交通量の少なさに驚いた。一泊した盛岡は、内陸部であったためか、被害の証を感じさせるものはない。翌日から、地震の痕をたどって、岩手県宮古市から南下した。大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市と大災害の爪痕が痛々しかった。ビデオを回し、カメラのシャッターを切った。窓ガラスが割れ、うち捨てられた民家。鉄骨だけの建物。うずたかく盛られたがれきの山。遠くに仮設住宅群が見える。

宮城県に入った。気仙沼は甚大な被害があった場所である。男山の立派な看板が掛かった建物の前で足を止めた。男山は、有名な酒蔵ではないか。その重厚な建物は、損傷は激しいものの、津波による破壊をなんとか免れた痕跡であった。しかし、多くの人が行き交っていただろう町並みは、無残に破壊され、点灯しない信号機が空しく立っている。辺りを見回しても人影は皆無である。内陸まで津波に押し流された巨船には、花束が供えられていた。そっと手を合わせて、巨大な船体を見上げると、「第18共徳丸」と見て取れる。船の下に、原型をとどめないほど押しつぶされた自動車を発見した。50メートルを優に超えるこの大型漁船が、港から津波によってここまで運ばれた事に驚愕し、改めて巨大津波の爆発的なエネルギーに身震いした。

早春の、のどかな海岸を歩いてみた。遠く眼前に広がる海原をながめて、あの津波の映像と重ねてみる。2つの景色にはあまりにも大きな隔たりがあった。気仙沼市をはじめ、石巻市、女川町、東松島町の各町並みは、震災から1年の時を経てなお、復興とはほど遠い状況にあった。震災の実像を目の当たりにし、少しずつリアリティーが拡張していった。

東日本大震災から14年が経過しようとしている。インフラの復旧は進んでいるのだろうか。地域コミュニティは再生できているのだろうか。そして、私たちは、震災の教訓を少しでも活かす行動をしているのだろうか。幼い頃、関東大震災の悲惨な様子を時々祖母から聞かされた。家が大きく揺れた。とっさにまだ幼い伯父を背負って、家の外に飛び出した。いたるところで火が発生した。流言飛語が広まった。大勢の人が亡くなった……。何度も同じ事を聞かされ、辟易した。それでも、「地震が起きたら火を消せ」という教訓は、頭の片隅にこびりついている。

令和7年は、昭和100年にあたる年となる。昭和生まれの私にとって、感慨深い年である。また今年、阪神淡路大震災から、30年目となる節目の年である。そんな令和7年、今年には是非もう一度東北の被災地を訪れて、その現状を感じてみたい。そしてそのことは、災害ボランティアに参加できなかった私が、災害を風化させず、教訓を活かし、防災意識を向上させる標とすべき方策だと思う。

2025年が安寧な年でありますように。



鉄骨と壁だけが残った建物



津波で打ち上げられた第18共徳丸



巨船に押しつぶされた自動車



津波で大破した男山店舗



震災で大きな被害を受けた家々



再開のめどが立たない駅のホーム

東日本大震災による気仙沼市の状況 2012年（平成24年）3月30日 S・H撮影

